

日本肝臓病患者団体協議会常任幹事

熊谷勇志さん

ウイルス性肝硬変・肝がん患者に係る医療費助成制度づくりを早急に検討し進めて下さい

肝臓の細胞に炎症を起こして肝細胞が壊される状態のさまざまな肝炎のうち、原因の8割以上がウイルスの感染です。自覚症状がないため、放っておくと知らず知らずのうちに肝硬変・肝がんへと進行するのが大きな問題です。21世紀の国民病とも、戦後最大の感染症とも言われました。感染の多くは、消毒が不十分な注射器の回し打ちによる予防注射であり、ウイルスに汚染された血液による輸血や、血液から作られた血液製剤を用いた医療行為などが主な原因です。このような悲劇をくい止めるため、日本肝臓病患者団体協議会は、全国の肝炎患者団体をまとめ、幾年にもわたり署名活動等で国会請願を行い、訴え続けてきました。また、多くの国会議員の先生方へ、地道にロビー活動を続けて理解を求めて参りました。

これは2009年11月10日、肝炎対策基本法の制定に向けて、ということで、日肝協がB型肝炎原告団及び薬害肝炎原告団とともに、肝炎対策基本法制定に関する請願を、院への紹介の労をとっていただきだいと要請行動をしたときの記録です。これは同月26日、衆院で可決をいただき、30日には参院全会一致で可決されました。そのとき、当時の鳩山首相にお礼の挨拶をしている日肝協代表幹事です。ついに、念願が実現しました。「B型肝炎及びC型肝炎に係るウイルスへの感染については、国の責めに帰すべき事由によりもたらされ、又はその原因が解明されていなかったことによりもたらされたものがある」と、前文に明記された「肝炎対策基本法」が2009年12月に制定され、2010年1月に施行されました。2011年5月には「肝炎対策基本指針」が公布されました。それに沿い、さまざまな施策が実現しています。そのなかでもC型肝炎では近年急速に進歩したC型肝炎ウイルスを排除する経口新薬は、高額ではありますが、医療費の助成が適用されました。月額1万円（所得により2万円）の個人負担で治療できるようになりました。

しかしながら、この経口新薬による治療は、C型肝炎ウイルスを排除するものであり、重症の肝硬変や、肝がんに至った肝臓を治療するものではありません。したがってこのような症状を抱える患者さんには依然として何の医療費助成もなく、また画期的な治療薬の開発も進んでおりません。

一方B型肝炎ではB型肝炎ウイルスを排除する新薬はなく、核酸アナログ剤で病状は安定するものの、肝がん死亡者数はいまだ横ばい状態を続けています。C型はウイルスを除去するだけ、B型は症状を安定化するだけ、なのです。

それに加えて辛いことは、一度取り除くと再発の心配がほとんどない一般のがんと違って、肝がんは一度取り除いても別の部位へ次々と発症します。このため「もぐらたたき」とも言われ、そのつど、辛い薬物療法や外科的処置に頼っており、10数回に及ぶ手術を行ったという症例が多数あります。ラジオ波治療や肝動脈塞栓治療、つらい抗がん剤治療などです。苦しみながら死を迎えるまで、終わりが無いという患者さんが大勢いるのです。

これらの方々を含み、毎年 100 名を超える肝炎患者が亡くなっておられます。ここまでに至ったほとんどの患者さんは、戦後の混乱期から身を粉にして国の発展に、そして経済成長に貢献してきた世代であり、しかも何の落ち度もないのに知らず知らず感染していた被害者なのです。高齢化が進んでいるこの大勢の方々に、国は今救いの手を差し延べずにいつできるのでしょうか。現状は「待ったなし」なのです。

わずかな年金で、入院費用、通院費用等をやりくりしなければならない状況に、せめてそれらの助けとなる医療費助成を国に求めるため、首題に掲げた項目を含む全 3 項目の国会請願をしました。40 名を超える国会議員の方々、全国参加者が大勢集まりました。そして本年 6 月、第 190 通常国会において、衆参両議院での採択をいただくことができました。

これには、国の「肝炎対策推進協議会」の開催や、与党で結成された「肝炎対策推進議員連盟」のご協力がありました。ここに書いてあるスカイブルー、この色は私ども患者会におきまして、大変、強力なバックアップである W H A 世界肝炎アライアンスの世界統一のシンボルカラーです。私達は、国の肝炎対策推進協議会には委員として派遣し、与党で結成された肝炎対策推進議員連盟にはオブザーバーや、ロビー活動で、緊密な連携を保っています。

また全国 B 型肝炎訴訟原告団・弁護団や薬害肝炎全国原告団・弁護団などとも、肝炎対策基本法制定時から継続的な協力や活動がありました。これらの苦労を無にすることのないよう、精力的なロビー活動を続けております。これは田村前厚生労働大臣と、これは現塩崎厚生労働大臣、古屋副厚生労働大臣との、主な今年のロビー活動ですが、このほかにも、多くの議員と接触して訴えています。また、毎年日肝協が主催する世界日本肝炎デーフォーラムというものが 7 月にあります。このほか、毎年全国代表者会議があり、今年は長野で 10 月に行いました。このように毎年行う日肝協主催の場でも、たえず私達は進言をしております。

もう一度、肝炎患者とそこご家族の願いを込めて、「ウイルス性肝硬変・肝がん患者に係る医療費助成制度づくりを早急に検討し進めて下さい」を、重ねて国の関係部署各位へ強く要望いたします。